

令和5年度事業報告

概要

令和5年度は、依然として続いた物価高騰による農業資材価格の高止まりや記録的な猛暑による農作物の収量及び品質の低下など農業分野においても大変に厳しい一年となりました。一方、公社事業に関しては、長らく続いた新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行となったことで、各事業ともコロナ禍以前の形態で実施できるようになりました。また、令和5年度の重点目標としていた新規就農者対策においては、新規就農相談会の開催や離農者の第三者承継を支援するなど、新規就農者の確保に向けて足がかりとなる事業を実施しました。

農地の利用集積促進関係では、平成26年度から宮城県農地中間管理機構であるみやぎ農業振興公社と業務委託契約を締結し、農地中間管理事業を主体に活動しました。令和5年度には、改正された農業経営基盤強化促進法が施行され、角田市でも実質化された人・農地プランである地域計画が策定されることになり、農地中間管理事業は市内農地の集積・集約化のためにますます重要な事業となります。令和6年3月末時の実績は、農地利用集積円滑化事業が491ha（前年比112ha減）、農地中間管理事業が1,170ha（前年比181ha増）となりました。両者の合計で1,661ha（前年比69ha増）になっています。また、担い手の農地利用集積状況は、令和6年3月末で集積率58.8%（前年55.3%）となっています。

地域農業戦略の調査・研究及びシンクタンク機能に関する事業では、農業振興公社だよりの発行のほか、ホームページ、SNSにより公社の各事業や角田市農業の魅力を発信してまいりました。また、関係団体との連携を深め今後の公社運営についても検討してまいりました。

農業経営改善支援関係では、農業経営改善計画（認定農業者の申請）の作成支援・審査、角田市農業青色申告会活動の支援を実施し、市内農業者の農業経営改善に寄与しました。

農業人材育成関係については「あぶくま農学校事業」を主軸とし事業を展開しました。まず、角田の次代を担う若い人たちの育成の場としている「風の塾」では新規販路の開拓のために「ふるさと納税研修会」を実施しました。また、農業体験学習の場としての「土の塾」は8月に開催、2名の参加がありました。

重点目標としている新規就農者の確保対策関係では、「道の駅かくだ」や「東京国際フォーラム」において新規就農相談会を開催し就農に興味のある方々の掘起しや、離農した方の農地や施設、機械等を次の就農者へと引き継ぐための第三者承継の支援事業を開始するなど、新規就農者の確保を図りました。その他、角田市地域おこし協力隊の活動支援団体として、農業の振興に関する活動を行う地域おこし協力隊員の活動を支援しました。

農産物の販売戦略の調査・研究に関する事業では、あぶくま農学校「農業経営実践塾」の「出前塾」として公社会員が「目黒区商工まつり」に参加し、自身で生産した農産物等をブース販売することで、接客による実践の中で顧客のニーズなどを学びました。また、「特別会員事業」により市内農産物の販売も行いました。

都市消費者等交流事業では、友好都市である目黒区との結びつきを考慮し、目黒区との交流を重点的に取り組んできました。市内3地区で、目黒区の交流実行委員会が募集した小学生達を受入れ、田植え・稲刈り体験を通じて交流を行いました。また、「大岡山西住区販売イベント」等で角田の農産物を紹介・販売したほか、「みどりの交流事業」として8種類1,100本の苗木を目黒区に供給しました。

以上、令和5年度の主な事業活動の概要についてご報告いたしました。このほか、計画に基づき実施した各事業の詳細は以下のとおりです。

1. 地域農業戦略の調査・研究及びシンクタンク機能に関する事業

【地域農業戦略の調査・研究】

自立農業者の育成、ブランド構築のための活動を支援した。

■自立した農業経営体の育成とあぶくま農学校ブランドづくりの展開

自立した農業経営者の育成には、マーケティングを踏まえた顧客志向の農業経営を展開することが必要であるとの視点から実践塾等の事業展開を行いました。また、消費者からの評価を高め信頼を得るため「あぶくま農学校ブランド」農畜産物の販売やPRを行いました。(後述5の事業を参照)。(ブランド認定使用者は現在25名。)

【シンクタンク機能に関する事業】

ホームページやSNS等を用いて、公社事業の状況や角田の農畜産物の情報を発信した。

また、県や角田市、農協などの関係団体と連携し、今後の市内農業を担う新規就農者の確保について検討・対応をいたしました。

■ホームページの更新及びSNSの状況

公社事業や角田市の農業の情報発信のため、掲載内容を逐次更新し、公社会員、消費者等に広くアピールしました。(HP:令和5年4月～令和6年3月のアクセス数 31,967PV、1日平均87件)

■農業振興公社だよりの発行

令和5年度は2回発行し、公社事業の実施状況やお知らせ等の情報提供に努めた。

- ① 第49号(令和5年7月1日発行) ②第50号(令和6年1月1日発行)

2. 農地の利用集積促進に関する事業

担い手農家や農業法人の規模拡大、農地の集団化等を円滑に進めるため、農地利用最適化推進委員(14名))と連携を図りながら、利用調整や集積促進を行った。

■公社流動化担当者、農地集積促進員の活動

【農地集積に関する取扱い件数状況】

単位：件

事業	件数 合計	内 訳			
		新規	再設定	解約	変更
円滑化事業	61	—	—	53	8
中間管理事業	618	444	0	89	85
計	679	444	0	142	93

■農地利用集積円滑化事業

【参考：年次別面積(純増分)の推移】

年次	年次別面積	累計面積	備考
平成12年度	140ha	140ha	合理化法人資格取得
13年度	89ha	229ha	
14年度	71ha	300ha	
15年度	65ha	365ha	
16年度	56ha	421ha	
17年度	76ha	497ha	
18年度	121ha	618ha	
19年度	77ha	695ha	
20年度	172ha	867ha	

21年度	24ha	891ha	
22年度	13ha	904ha	農地利用集積円滑化団体承認
23年度	59ha	964ha	
24年度	68ha	1,032ha	
25年度	76ha	1,109ha	
26年度	39ha	1,148ha	農地中間管理事業業務受託開始
27年度	12ha	1,160ha	
28年度	49ha	1,209ha	
29年度	36ha	1,245ha	
30年度	△91ha	1,154ha	西根担い手農地中間管理事業への変更
31年度	△16ha	1,138ha	農地利用集積円滑化事業 2.3.31 終了
令和2年度	△143ha	995ha	
3年度	△223ha	772ha	枝野地区農地中間管理事業へ一括承継
4年度	△169ha	603ha	
5年度	△112ha	491ha	

■農地中間管理事業

宮城県農地中間管理機構（公益社団法人みやぎ農業振興公社）と平成26年度から業務委託契約を毎年締結し、農地の出し手の掘り起こし、受け手（担い手）とのマッチング、農地データ入力、手続きに係る各種書類の作成・整備等の業務を行った。

【農用地の賃貸借事業の令和5年度計画と実績】

区 分	機構借り入れ		機構貸し付け	
	件数	面積 (ha)	件数	面積 (ha)
計 画	400	150	250	150
実 績	444	181	444	181

※農用地利用集積計画（機構借り入れ）の年度内公告分で計上

【参考：年次別面積（純増分）の推移】

年 次	年次別面積	累計面積	備 考
平成26年度	64ha	64ha	
27年度	132ha	196ha	
28年度	88ha	284ha	
29年度	36ha	320ha	
30年度	149ha	469ha	
31年度	46ha	515ha	
令和2年度	112ha	627ha	
3年度	208ha	835ha	
4年度	154ha	989ha	
5年度	181ha	1,170ha	

【参考：公社の仲介面積内訳（令和6年3月末現在）】

事 業 名	面 積	うち田	うち畑
農地利用集積円滑化事業	491ha	457ha	34ha

農地中間管理事業	1,170ha	1,113ha	57ha
合計	1,661ha	1,570ha	91ha

【参考：担い手の農地利用集積状況（令和6年3月末現在）】

単位：ha

担い手の区分	経営体数	計	自己所有		借入地		特定農作業受託	
			うち田	うち田	うち田	うち田		
認定農業者	183	2,346.36	414.55	314.19	1,839.52	1,711.55	92.28	92.28
他市町認定農業者	2	11.02	8.33	2.72	2.69	2.07	0	0
認定新規就農者	6	41.39	0	0	41.39	39.15	0	0
基本構想水準到達者	5	25.45	8.55	3.46	16.71	15.51	0.19	0.19
集落営農組織	5	37.57	0	0	0	0	37.57	37.57
計	201	2,461.79	431.43	320.37	1,900.31	1,768.28	130.04	130.04

※認定新規就農者：基盤法第14条の4第1項に基づき、市町村から青年等就農計画の認定を受けた経営体

※基本構想水準到達者：農業経営改善計画の終期を迎えた認定農業者のうち、再認定を受けなかったものの、従前の経営面積を維持又は拡大している経営体

※集落営農組織：複数の農業者より構成される農作業受託組織であって、組織の規約を定め、対象作物の生産、販売について共同販売経理を行っている任意組織

担い手への集積率

角田市 耕地面積	令和4年度末 集積面積	集積率	令和5年度末 集積面積	集積率
4,410ha	2,432ha	55.3%	2,462ha	58.8%

○平成29年度までは、角田市独自の「認定農業者等への利用集積状況」を掲載していたが、平成30年度からは国が全国的に集計している「担い手の農地集積状況調査」を掲載している。

○角田市耕地面積は、農林水産省統計の令和5年の数字である。

3. 農業経営改善支援事業

角田市基本構想に掲げる農業経営体の育成を図るため、農業経営の相談活動、経営改善計画書の作成支援、認定農業者の経営改善を支援した。

また、簿記記帳の推進を図り、青色申告への移行を推進した。

■経営改善活動実績

区 分	実 績			
	回数等	開催年月日	参加数	内 容
経営改善計画認定制度説明・認定更新	戸別訪問等	5.4.1～6.3.31	36人	認定農業者掘り起こし・経営相談等
パソコン農業簿記定例会	20回	5.11.7～5.2.15	延べ162人	農業青色申告会(55人)
新規就農者支援活動	31件	5.4.1～6.3.31	31人	就農相談、青年等就農計画作成相談等

■経営改善相談

相談内容	新規就農	税 務	金 融	認 定 制 度	労 務 管 理	社 会 保 険	その他
件 数	31	0	0	36	0	0	0
対 応 方 法	就農に関する相談	税制度の案内	制度資金案内	認定相談案内等	問題点の把握	問題点の把握	パソコン等

■農業経営改善推進会議の開催

- ・令和5年4月26日 農業経営改善計画の審査 新規 2件 再認定 5件 計画変更 1件 青年等 1件
- ・令和5年9月6日 農業経営改善計画の審査 新規 2件 再認定 6件 青年等 2件
- ・令和6年2月9日 農業経営改善計画の審査 新規 2件 再認定 7件 計画変更 2件
- ・書面議決(令和5年10月) 農業経営改善計画の審査 計画変更 1件
- ・書面議決(令和5年12月) 農業経営改善計画の審査 計画変更 1件
- ・書面議決(令和6年3月) 農業経営改善計画の審査 計画変更 1件

【参考：認定農業者の状況】

- ・令和5年度末の認定農業者 183人(令和4年度末の認定農業者 179人)
内訳：個人 159人(男 154人・女 4人)、法人 22、共同 2
うち県認定：個人 2人(男 2人)、法人 3

■角田市農業経営者会議活動の連携・支援

角田市農業経営者会議の主催で開催した次の事業を支援した。

- ・市長との農政懇談会：令和5年11月28日(火) 仙南シンケンファクトリーセミナールーム
- ・講演会：令和6年2月22日(木) 演題：基礎からわかる農家のマーケティング・販売促進
講師：ファームサイド株式会社代表取締役 佐川 友彦 氏

■農業青色申告会の支援

①相談及び指導

- ・期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日
- ・回数：定例会 20回
- ・内容：データ年度更新・入力・決算処理、税務研修会、e-Tax代理送信(所得税・消費税)申告
- ・参加人員：定例会 162人
- ・税理士代理送信 39人・個人送信 0人・計 39人(会員家族 17名分含む)

②簿記ソフト購入支援

令和5年度の簿記ソフトの購入者はいなかった。

- ・購入助成0名 0円（対象簿記ソフト：ソリマチ農業簿記 Ver.11 26,400円）

■農業簿記研修会の開催

簿記記帳を普及し経営改善につなげることを目的に、角田地域担い手育成総合支援協議会事業と連携し簿記ソフト操作研修会を開催した。

- ・令和6年1月15日(月) ソリマチ農業簿記操作研修会（決算・確定申告書作成編）21名参加

4. 農業人材育成に関する事業

令和3年度から新規就農者の確保を公社の重点項目にしており、令和5年度は「道の駅かくだ」と共催で第1回目となる移住・就農相談会を開催しました。また、東京国際フォーラムで開催された「新・農業人フェア」にも参加し、角田市ブースにおいて就農相談を行いました。

その他、離農などで活用されなくなった農地や機械等を新規就農者などに承継する、第三者承継事業を始めました。

あぶくま農学校関係では、あぶくま農学校運営委員会を開催し、新規就農者の確保や若手農業者の育成、これからの事業の展望などを話し合いました。「土の塾」では、2名の参加があり梨及び施設園芸で農業体験を行いました。また、若手農業者の経営能力と経営者意識の向上を図るための「風の塾」では、新たな販路開拓のための「ふるさと納税研修会」を開催しました。

【新規就農者支援事業】

■新規就農者確保対策関係

- ・「第1回移住・就農相談会」 令和5年11月23日 道の駅かくだ 相談者5名
- ・「新・農業人フェア」 令和6年1月20日 東京国際フォーラム 相談者9名
- ・第三者承継支援事業 受付2件

■土の塾

令和5年8月22日～8月29日 参加者2名（果樹、施設園芸）

【農業人材育成に関する事業】

■あぶくま農学校運営委員会

第1回 令和5年6月8日 第2回 令和6年3月1日

■若手農業者育成研修会（『風の塾』）

角田市農業経営者会議や角田地域担い手育成総合支援協議会と共催し、若手農業経営者らを対象として全国担い手サミット、みやぎ農業担い手サミットの参加案内を通知したが参加者は無かった。

若手農業経営者の新たな販路開拓のために「ふるさと納税研修会」を開催し、ふるさと納税の仕組みと農産物販売について学ぶ機会を設けた。

- ・全国担い手サミット：令和6年2月28日(水)～29日(木) 東京（不参加）
- ・みやぎ農業担い手サミット：令和6年2月22日(木) 仙台国際センター（不参加）
- ・ふるさと納税研修会：令和5年11月30日(木) 角田市役所 10名参加

講師：株式会社JTBふるさと開発事業部角田営業所 営業第一課営業担当課長 中田 毅 氏

■角田地域担い手育成総合支援協議会活動の連携・支援

角田地域担い手育成総合支援協議会が「元気のでるみやぎの担い手育成・確保交付金」を活用し、角田市農業経営者会議と共催で実施した諸事業（研修会、講演会）に対し、公社も連携し支援を行った。

■角田市地域おこし協力隊員活動支援事業

令和4年1月1日から角田市地域おこし協力隊員に委嘱された「農業の振興に関する活動」を行う隊員を公社の非常勤職員として受け入れ、その活動を支援した。

- ・梨園再生チャレンジ（道の駅とのコラボ企画） 令和5年4月～9月

- ・みやぎ INAKA ゼミ（県内大学生）との日本なしの振興活動

5. 農産物の販売戦略の調査・研究に関する事業

「あぶくま農学校ブランド」の確立と消費者からの信頼を得るため、市内の農産物・加工品の販売やPR、地域のイメージアップを図った。

■角田農業のサポーター（特別会員）の加入促進

令和5年度は11,000円（A、Bコース）5,500円（C、Dコース）を設定し募集を行った。

特別会員数 142 口（前年度 134 口）

【Aコース】79 口 8月・9月：梨

10月：朝ごはんセット（新米（つや姫）5キロ、梅干し、納豆、味噌）

11月：麦とろセット（新米（つや姫）5キロ、押し麦、長いも）

1月：角田産いちご（4パック）

【Bコース】6 口 10月：新米（つや姫・ひとめぼれ）20キロ、味噌

【Cコース】44 口 10月：牛肉500g又は400g、秘伝豆800g

※秘伝豆が不作で販売できなかったため、牛肉を増量し対応した。

【Dコース】13 口 10月：新米（つや姫・ひとめぼれ）10キロ

・特別会員農産物出荷者会議

令和5年5月26日（金）、特別会員農産物出荷者会議を開催し、前年度の結果を報告するとともに、今年度の内容、特別会員事業のねらいや出荷基準及びチラシの作成等について話し合いを行った。

■あぶくま農学校「出前塾」

目黒区商工まつり：令和5年11月18日～19日 参加者8名

梅干し 外23品目 151,550円

■地場産酒米の消費拡大の支援

地場産酒米の消費拡大を進める「地酒用地場産米消費拡大推進協議会」の活動（蔵王酒造株式会社、株式会社新澤醸造店と連携したかくだ地酒の普及促進）を支援した。

取り纏め数量：臥城2本組1セット … 77セット

しぼりたて生酒えんころ2本組1セット… 100セット

牟宇姫3本組1セット … 180セット

6. 都市消費者等交流事業

食農教育の一環としての農業体験活動や農業・農村に触れる機会の少ない都市消費者との交流を通じて、農業・農村への理解と消費者意識の向上を図った。

■金津小学校区・下目黒小学校農業体験交流（農業体験学習）

◎令和5年5月6日（土）：角田農業体験学習“春”

・参加児童等：金津小学校児童12名

：下目黒小学校児童16名 交流実行委員等6名

・主な内容：あぶくま農学校入校式、田植え体験、あぶくま農学校田植え体験証明書授与式

◎令和5年9月30日（土）：角田農業体験学習“秋”

・参加児童等：金津小学校児童22名

：下目黒小学校児童23名 交流実行委員等13名

・主な内容：稲刈り体験、あぶくま農学校稲刈り体験証明書授与式

・主な交流内容：田植え、稲刈り体験に加え、さつまいも掘りなどの農業体験を通じて、両学校間の児童の交流を行った。

■西根地区農業体験交流

◎令和5年6月3日(土)：角田農業体験学習“春”

- ・参加児童等：北郷小学校児童8名 北角田中学校生徒2名
：月光原小学校児童18名 交流実行委員等5名
- ・主な内容：あぶくま農学校入校式、田植え体験、あぶくま農学校田植え体験証明書授与式

◎令和5年10月14日(土)：角田農業体験学習“秋”

- ・参加児童等：北郷小学校児童10名 北郷中学校生徒4名
：月光原小学校児童27名 交流実行委員等5名
- ・主な内容：稲刈り体験、あぶくま農学校稲刈り体験証明書授与式
- ・主な交流内容：月光原小学校児童を地元で受け入れ、田植え・稲刈り体験会を通じて、地域交流を行った。

■目黒角田絆交流事業

◎令和5年5月20日(土)：角田農業体験学習“春”

- ・参加児童等：緑ヶ丘小学校児童18名 交流実行委員等24名
- ・主な内容：あぶくま農学校入校式、田植え体験、あぶくま農学校田植え体験証明書授与式

◎令和5年9月30日(土)：角田農業体験学習“秋”

- ・参加児童等：北郷小学校児童3名
：緑ヶ丘小学校児童17名 交流実行委員等23名 緑ヶ丘小学校長
- ・主な内容：稲刈り体験、あぶくま農学校稲刈り体験証明書授与式
- ・主な交流内容：緑ヶ丘小学校児童を地元で受け入れ、JA 青年部北郷支部が指導し、田植え・稲刈り体験会を通じて、地域交流を行った。

■北郷小学校農業体験学習

◎令和5年5月24日(水)：角田農業体験学習“春”

- ・参加児童等：北郷小学校児童28名（5年生）
- ・主な内容：あぶくま農学校入校式、田植え体験

◎令和5年9月25日(月)：角田農業体験学習“秋”

- ・参加児童：北郷小学校児童28名（5年生）
- ・主な内容：稲刈り体験、あぶくま農学校修了証書授与式

■目黒区内の住区等のイベント

- ・大岡山西住区販売イベント：令和5年10月15日(日) 販売額67,160円・21品目(物品のみ)
- ・自由が丘女神まつり：令和5年10月8日(日)～9日(月) 販売額90,000円 梨

■目黒区・角田市みどりの交流事業

目黒区が区民に配布する苗木（ムクゲほか）1,100本を、9月から12月にかけて供給した。苗木は（公財）角田市地域振興公社で育成した。

ムクゲ：115本 アジサイ：202本 ウツギ：131本 キンモクセイ：154本

ドウダンツツジ：160本 ハギ：127本 ブルーベリー：100本 アベリア：111本

■東京工業大学留学生角田農村体験交流事業の支援

目黒区内にある東京工業大学の留学生に日本の農村での滞在と交流を経験させたい旨の同大学の要望により、農家でのホームステイ並びに現場交流等を支援した。受入れ団体は、「アジアの農民と手をつなぐ会」（伊藤稔代表）

期間：令和6年2月27日(火)～29日(木)

参加：生徒15名（内訳タイ1名、インドネシア2名、中国3名外5か国から9名）引率者3名

7. 事務局を担う組織・団体等

下記組織の事務局を担当し、また、構成員として参画し、提案や提言を行った。

■事務局のある組織

角田市農業青色申告会、角田市農業経営者会議、角田地域担い手育成総合支援協議会、
角田市地酒用地場産米消費拡大推進協議会（おらほの美酒を育てる会）

■構成員となっている組織

角田市農業再生協議会、角田市耕作放棄地対策協議会、角田市地域農業経営基盤強化促進計画策定協議会、角田ずんだまつり実行委員会、生涯学習フェスティバル実行委員会